15. ^{99m}Tc-MDP 骨シンチグラムにて腫瘍集積を示した後縦隔 Ganglioneuroblastoma の1例

亀井　哲也　瀬戸　光　二谷　立介
古本　尚文　日原　敏彦　滝　邦康
麻生　正邦　石崎　良夫　羽田　陸郎
柿下　正雄　（富山医薬大・放）

^{99m}Tc-MDP 骨シンチグラムにて腫瘍集積を示した，きわめて稀な腫瘍である後縦隔 Ganglioneuroblastoma の1例を経験し，核医学的各種イメージング，CT などを施行し，組織学的所見や他の腫瘍集積例の検討を行った．

症例は18歳の女性で，発病は中学生の頃と推定される．昭和55年背部腫瘤切除術を施行されている．昭和57年4月5日，放射線治療を目的に入院．入院時，尿中カテコラミン，VMA の高値を認めた．治療は44日間に50 Gy の照射を行った．治療前の CT では多数の石灰化を伴った腫瘤が後縦隔に認められた．骨シンチで腫瘤に一致した集積が認められたが，^{67}Ga シンチや ^{201}Tl シンチでは描出不良であった．治療後，CT では腫瘍壊死によるとみられる多数の低吸収域が出現したが，骨シンチでは変化が認められなかった．組織像(手術時)では，腫瘍内に無数の石灰化が認められた．また血管の周囲に輪状の石灰化を認めた．

本症例以外に3例(大腸癌の肝転移巣，甲状腺癌の頸部リンパ節転移巣，悪性胸腺腫の頸部リンパ節転移巣)に腫瘍集積が認められた．いずれも石灰化と血流増加の所見が認められた．以上より，^{99m}TcMDP の腫瘍集積の機序として，石灰化および局所の血流の増加が1つの要因と考えられた．

16. T_3 測定用キットの評価
特に添加回収試験の成績から

真坂美智子　吉見　輝也　（浜松医大・2内）
金子　昌生　（同・放）

各種測定法の正確性を検討する方法として，添加回収試験が実施される．多くの場合，RIA の分野では，Kit 標準品と血清とを等量混合で調製した検体を用いる方法が採用されている．昭和56年夏，臨床化学会分析部会から提示された添加回収試験・標準化試案ををもとに，添加回収試験について再検討を試みた．測定対象項目として T_3 をとりあげ，Amerlex T_3, T_3-RIA Kit II, Gamma Coat T_3, RIA-gnost T_3 Triiodothyronin“栄研”の各キットについて，従来からの等量混合した検体を用いた方法と，市販標品と血清の混合比を1対9以上で調整した方法(新法)との比較検討をした．

当然のことながら，標準品を用いた場合，その成績は良好であり，ほとんどが95～105％の回収率であったが，標品を用いた新法では，極端に変値に検出されたものもあり，成績は Kit によって異なっていた．

できるだけ信頼性の高い検査値を報告することを考えると，両者の成績が一致することが望ましく，標準品の調製に疑問が残った．またこの“ずれ”が各測定値の差異の一因とも考えられ，この点でも一考を要すると思われた．

17. Free T_4 (One step 法) の基礎的検討

松尾　定雄　矢橋　俊丈　金森　勇雄
市川　秀男　木村　得次　安田　鋭介
吉田　宏　桶口ちづ子（大垣市民病・特放）
中野　哲　綿引　元　武田　功
（同・2内）
佐々木常雄　石口　恒男　（名大・放）

現在，FT_4 測定法として，free T_4 を直接測定する直接法と，総 T_4 ないしは PBI 値と％free T_4 fraction 値から F T_4 値を求める間接法とが用いられている．今回，間接的な FT_4 を測定する RIA キット，日本トラベノール社よりガンマーコート FT_4 (one step 法) キットの提供を受け使用する機会を得たので，基礎的検討の結果を報告する．

結　語

1. 標準曲線の再現性

10回測定の各標準濃度における C.V. (％) は 2.00～3.45(％) の間にあった．

2. インキュベーション条件

37°C, 90分間のインキュベーション条件が適当である．

3. 再現性

同時再現性の C.V. (％) は 3.7～7.8 (％), 日差再現性では 5.8～8.1 (％) であった．

4. 回収試験

回収率は 85.1～98.9 (％) の間にあった．

Presented by Medical*Online